

高
2024

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始まりの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で18ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 始まりの合図で、解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問があるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図で、ただちに筆記用具を置きなさい。

□ 1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これからインターネットを用いて不特定多数に発信するスキルは、決してメディアや広報関係の仕事についている人だけに必要とされるものではない。むしろ公私に亘って、僕たちの社会生活の基本的なスキルになるはずだ。しかしその反面、世の中に何か自分の考えを述べたいが技術が追いつかなくて、コメント欄やソーシャルブックマークで^{※注}タイムラインの潮目を読んで同調圧力に加担してしまうというケースは意外に多いはずだ。【X】
こういう卑しい「発信」をしてしまう人が目立ってしまういまのインターネットにウンザリして、自分が発信することに二の足を踏んでいる人も多いはずだ。① だがもはや僕たちは「書く」ことから逃れることはできない。

そう「書く」こと、「発信する」ことはもはや僕たちの日常生活の一部だ。この四半世紀で、「読む」ことと「書く」ことのパワーバランスは大きく変化した。前世紀まで「読む」ことと「書く」ことでは前者が基礎で後者が応用だった。「読む」ことが当たり前の日常の行為で「書く」というのは非日常の特別な行為だった。しかし現代では多くの人にとっては既にインターネットに文章を「書く」ことのほうが当たり前の日常になっている。そして（本などのまとまった文章を）「読む」ことのほうが特別な非日常になっている。これまで僕たちは「読む」ことの延長線上に「書く」ことを身につけてきた。しかし、これから社会に出る若い人々の多くはそうはならない。彼ら／彼女らの多くはおそらく【A】ことに【B】ことより慣れている。現代の情報環境下に生きる人々は、読むことから書くことを覚えるのではなく、書くことから読むことを覚えるほうが自然なのだ。これは現代の人類が十分に【C】訓練をしないままに、【D】環境を手に入れてしまっていることを意味する。だが、かつてのように読むこと「から」書くというルートをたどることは、もはや難しい。それは僕たちの生きているこの世界の「流れ」に逆らうことなのだ。

ではどうするのか。現代において多くの人は日常的に、^a脊髄反射的に、たいした思慮も検証もなく「書いて」しまう。ならば「読む」と同時に「書く」ことを始めるしかない。いや、より正確には訓練の起点は「書く」ことになるはずだ。まずはプラットフォームの促す脊髄反射的な発信ではない良質な発信を動機づけ、その過程で「書く」ためには「読む」ことが必要であることを認識させる。そして「読む」訓練を経た上でもう一度「書く」ことへの挑戦を求める。「読む」ことではなく「書く」ことを起点にした^②往復運動を設計する必要があるのだ。

ではこの時代に求められているあたらしい「書く」「読む」力とは何か。たとえば能力は高くないけれど、なにか社会に物申したいという気持ちだけは強い人がいまインターネットで発言しようとするとき、^③彼／彼女はその問題そのものではなくタイムラインの潮目のほうを読んでしまう。そしてYESかNOか、どちらに加担すべきかだけを判断してしまう。

タイムラインの潮目を読むのは簡単だ。その問題そのもの、対象そのものに触れることもなく、多角的な検証も背景の調査も必要なくYESかNOかだけを判断すればよいのだから。しかし、具体的にその対象そのものを論じようとする話はまったく変わってくる。そこには対象を解体し、分析し、他の何かと関連付けて化学反応を起こす能力が必要となる。

そして価値のある情報発信とは、YESかNOかを述べるのではなく、こうしてその対象を「読む」ことで得られたものから、自分で問題を設定することだ。単にこれを叩く／褒めるのが評価経済的に自分に有利か、不利かを考えるのではなく、その対象の投げかけに答えることで、新しく問題を設定することだ。ある記事に出会ったときにその賛否どちらに、どれくらいの距離で加担するかを判断するのではなく、その記事から着想して自分の手であたらしく問いを設定し、世界に存在する視点を増やすことだ。既に存在している問題の、それも既に示されている選択肢（大抵の場合それは二者択一である）に答えを出すのではなく、^④あらたな問いを生むことこ

それが、世界を豊かにする発信だ。

「書く」ことと「読む」ことを往復することの意味はここにある。単に「書く」ことだけを覚えてしまった人は、与えられた問いに答えることしかできない。【Y】対象をある態度で「読み」、そこから得られたものを「書く」ことで人間はあたらしく問いを設定することができる。そうすることで、世界の見え方を変えることができる。

あらたな問いを生む発信は、既に存在する価値への「共感」の外側にある。人々はインターネットである情報を与えられ、それに「共感」すると「いいね」する。このとき、その人の内面に変化は起きない。それがよいと予め思っていたからこそ「いいね」する。しかし問いを立てる発信は違う。国会を取り巻くデモ隊と、それを取り締まる機動隊のどちらに「共感」するかという回答を行う発信は世界を少しも変えはしない。しかしそこに人出を見込んでアンパン屋を出す人々の視点を導入することで、あらたな問いが生まれる。世界の見え方が変わるのだ。

こうした価値の転倒は、「共感」の「いいね」の外側にある。^⑤人間は「共感」したときではなくむしろ想像を超えたものに触れたときに価値転倒を起こす。そして世界の見え方が変わるのだ。

そして価値転倒をもたらすのは「報道」の役目ではない。僕が^{※注}スロージャーナリズムのように「報道」に主眼をおかない理由がここにある。事実を報じることは前提として必要だ。^⑥しかしそれだけでは足りない。僕たちはその事実に対してどのように接するのか。その距離感と進入角度を変えるための言葉が必要なのだ。そして様々な距離と角度から対象を眺め、接することではじめて人間はその事物に対しあたらしい問いを設定することができるのだ。そう、その行為に僕はいま改めて「批評」という言葉を充てたい。「報道」が伝えることができるのは、ある事実の一面面だ。【Z】「批評」はその事実の一面面と、自己との関係性を考える行為だ。距離感と進入角度を試行錯誤し続ける行為だ。「報道」は世界のどこかで生まれた「他人の物語」を伝える。報道を受信した人々はそれを解釈して「自分の物語」として再発信する。このとき与えられた問いにYESかNOか、0

か1かを表明することだけでは世界は貧しくなる。このときあたらしく問いを立て直し「共感する／しない」という二者択一の外側に世界を広げるためには「批評」の言葉が必要なのだ。

「批評」とは自分以外の何かについての思考だ。それは小説や映画についてでも構わない。料理や家具についてでも構わない。それは、対象と自分との関係性を記述する行為だ。そこから生まれた思考で、世界の見え方を変える行為だ。最初から想定している結論を確認して、考えることを放棄して安心する行為ではなく、考えることそのものを楽しむ行為だ。ニュースサイトのコメント欄やソーシャルブックマークへの投稿で大喜利のように閉じた村の中でポイントを稼ぐことで満たされるのではなく、よく読み、よく考えること、ときに迷い¹袋小路に佇む²ことそのものを楽しむ行為だ。

誰かが批評を書くとき、書かなくとも批評に触れて世界への接し方が変わるとき、それは紛れもなく自分が発信する自分の物語の発露になる。しかしそれはあくまで自分についての言葉ではない。自分の物語でありながら自己幻想には直接結びつくことはない。何かについて書くこと（批評）は、自己幻想と自己の外側にある何か（世界）の関係性について言葉にすることだ。それは不可避に自己幻想の肥大するこの時代に、より必要とされる言葉なのだ。

もしあなたが世界に素手で触れたいと考えたとき、まずインターネットにアクセスするだろう。しかしいまの「速すぎる」インターネットに流されると、それは素手で触れているつもりで、単に考える力を失ってしまうことになる。むしろそのほうが楽だと無意識に選択する人が大半だろう。だがこうして、民主主義が自由と平等を破壊しつつあるいまだからこそ、ひとりでも多く考える力をもった人材を輩出する必要がある。

だからこそ情報環境の進化が自己幻想を肥大させる時代に、「速すぎる」インターネットが世界を飲み込む時

代にいちばん必要なのはもつと「遅い」インターネットだ。そしてこの運動で僕たちが手に入れるべきものは自己幻想をマネジメントし、その速さを主体的にコントロールする力だ。それは言い換えれば世界に対する多様な

【 E 】を試行錯誤し続ける力だ。「遅さ」はこの自由を確保するための手段に過ぎない。この自由を行使することで僕たちは既に存在している問いの答えを探すだけでなく、あたらしく問いそのものを生み出すことができる。そしてそのことで世界を豊かに、より多様にすることができる。

重要なのはどこにゴールを設置し、どうやってそこにたどり着くかではない。走り続けられる足腰を作り上げ、そして維持することなのだ。

(宇野常寛 『遅いインターネット』)

【注釈】

タイムライン …… SNSやメッセンジャーアプリなどで、他人や自分の投稿を時間順に表示したもの

スロージャーナリズム …… 時間をかけた調査報道を前提とした良質な情報発信を行うインターネット

メディア

問一 空欄XYZにあてはまる言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア そして
- イ また
- ウ しかし
- エ 例えは

問二 傍線部①「だかもはや僕たちは『書く』ことから逃れることができない」とあるが、それはなぜか。本文中から五十字以内で抜き出し、解答欄に続くよう、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 空欄ABCDに入る適切な組み合わせを次から選び記号で答えなさい。

- ア A読む B書く C読む D書く
- イ A書く B読む C書く D読む
- ウ A読む B書く C書く D読む
- エ A書く B読む C読む D書く

問四 傍線部a「脊髓反射的」b「袋小路に佇む」とあるが、本文中の意味として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

a 「脊髓反射的」

ア 意識とは無関係だが、常に同じ行動をとること

イ 意識する間もなく、すぐさま行動すること

ウ 気づかないふりをして、故意に行動すること

エ どのような結果が生じるか知りながら、行動すること

b 「袋小路に佇む」

ア 難解さに行き詰まり、答えがでないままでもあきらめないこと

イ 形勢が不利になって、その場から逃げ出したいと思うこと

ウ どうしてよいかわからず結論が出せなくとも、そのまま問い続けること

エ 慎重に考えて、軽はずみに物事を結論づけけないこと

問五

傍線部②「往復運動」とは何か。説明として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 問題に触れた際、丁寧に検証を行った上で、答えを決定することを目的とせず、その答えそのものを論じるための意識のやりとり

イ 問題に触れた際、他者の意見を幅広く集めて参考にし、その上で自分の意見を決定し、正しいかどうか確認する意識のやりとり

ウ 問題に触れた際、単純な判断をするのではなく、自らの問いかけを作ることと幅広い考えを持ち、深められるという意識のやりとり

エ 問題に触れた際、その問題に対するさまざまな世界的意見を調査することで、他者の意見を自分の中に取り入れ深められる意識のやりとり

問六 傍線部③「彼／彼女はその問題そのものではなくタイムラインの潮目のほうを読んでしまう」とあるが、筆者はその結果起きる事象についてどのように述べているか。本文中から探し、十五字以内で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部④「あらたな問いを生むことこそが、世界を豊かにする発信だ」とあるが、それはなぜか。理由として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア あらたな問いを自ら設定することは他の物事と関連づけることとなり、世界の見方が広がるから

イ あらたな問いを設定し問い自体を評価することで、判断基準を深め多角的な検証ができるようになるから

ウ あらたな問いの答えを模索する中で、時代に求められている情報が何かわかることができるから

エ あらたな問いの答えを検討することで、主体的に問を受け入れることができ自由を得ることができるから

問八 傍線部⑤「人間は共感したときではなくむしろ想像を超えたものに触れたときに価値転倒を起こす」とあるが、それはなぜか。最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 自分の考えを確認することで、人間は安心を覚え、安定して物事の判断をすることができ、世界に自信をもつて意見を言えるから

イ 自分の考えではなく、自分以外の何かについて思考することが、楽しみにさえ繋がり、世界に対する新しい観点を持てるから

ウ 自分の考えも他者の考えも同等と考え、お互いの意見を尊重することで、意見が合わなくても争わず、世界の見え方を変えることができるから

エ 自分の考えを持つことに常に責任を持ち、改善を求められた時は常に対応する柔軟性を持つことで、新たな考え方を得る事ができるから

問九 傍線部⑥「しかしそれだけでは足りない」とあるが、それはなぜか。理由として最もふさわしいものを選び記号で答えなさい。

ア 「批評」は自分以外についての思考であり、共感の表明が必要となり、正確な事実を伝えることにはならないから

イ 「報道」は情報技術の発展を促し、メディアに連動するコミュニティを持ち、人間の心を動かす方法を根底から変えようとするものだから

ウ 「批評」は、自己幻想であり、権力と政治性を拒否するもので、自己の外側にある世界へと直接結びつくことができないから

エ 「報道」は他人の物語を伝えるものであり、あたらしい問いの設定なしには対象と自分の関係性を深めることにはならないから

問十 空欄【 E 】にあてはまる適切な語を本文中から八字で探し、抜き出して答えなさい。

問十一 次の各文は、この文章を読んだ生徒AからEの感想です。筆者の意見を踏まえていない感想はどの生徒ですか。解答欄にあらうよう、記号で答えなさい。

生徒A 毎日の生活の中で、私たちは「読む」よりも先に「書く」生活をしているのだと気づかされました。中傷被害を受けて苦しみ命を絶つニュースが増えています。それは、ひとりひとりの良心の問題だけではなく、考えることをやめることが当たり前になっていることに問題があると思います。

生徒B 中傷被害のニュースは私も気になっています。でも自分が被害者になるだけでなく、気が付かないうちに自分が加害者に自分がある可能性もあるとわかりました。だからこそ、「共感する」「共感しない」だけではない、豊かな考えを持てるようになりたいと思います。

生徒C 私は、答えのない問いを発見し、自分なりに答えを見つけることの重要性に気づきました。最近話題になっているChatGPTなどを使えばまとまった文章を簡単に手にいれることができます。けれども、大切なのは、正解が出なくても、自分で考えることだと思いました。

生徒D 私たちが生きるこれからの社会は大きく変わるといわれています。だからこそ、自分自身考えに自信をもって発表する重要性を感じました。自分とは違った対象を真剣に論じるためにも、私は自分の意見を大切にし、他者とした時に、自分の位置をはっきりさせようと思います。

生徒E

好きなことを突き詰めて学び、オンラインワンの存在を目指すためにも、私は興味のあることをなんでも学びたいと思います。「自分の物語」があるからこそ、客観的にいられるとわかりました。他者の意見を受け入れ、さらに自分の物語を深め、再発信していきたいです。

二 次の文章は宇治拾遺物語のお話です（出題の関係で一部表記を改めました）。古文と現代語訳文が交互に連なっていて一つの物語となっています。よく読んで、あとの問いに答えなさい。

ある山に鷹を捕えて飼育している男がいました。ある時男は、見事な野生の鷹が山の断崖絶壁のところに巣をつくって雛を育てているのを見つけ、なんとか手に入れたいと手を伸ばしましたが、足元の枝が折れて谷底に落ちてしまいました。一緒に行った従者たちも大変心配してなんとか探し出したと思います。山は深く、谷も切り立っていたので探せないまま、男は死んでしまったものだと思ひ込み家に帰っていききました。

一方男はと言えば、

さて、谷には、^①すべき方なくて、石のそばの、折敷の広さ（※せいせい三〇センチ四方ぐらいの広さの石）にてさし出たるかたそばに尻をかけて、木の枝をとらへて、少しも身じろぐべきかたなし。^②いささかもはたらかば、谷に落ち入りぬべし。いかにもいかにせんかたなし。鷹飼いを仕事としていましたが、この男は、小さい頃から観音経を読み、信仰を続けていたので、（今回も）「お助け下さい」と深く念じて、ひたすらお願いし、この経を（ずっと）読んでいました。「弘誓深如海（ぐぜいしんによかい）」（※観音経の一句）とあるわたりを讀む程に、谷の底の方より物のそよそよと来る^③心地のすれば、「何にかあらん」と思ひて、やをら見れば、えもいはず大きな蛇なりけり。長さ二丈ばかり（※約3メートル）もあるらんと見ゆるが、さしにさして（※こちらをめぐけて）這ひ来れば「我はこの蛇に食はれなんずるなめり。悲しきわざかな。観音助け給へとこそ思ひつれ。こはいかにしつる事ぞ」と思ひて念じ入りてある程に、ただ来に来て、我が膝のもとを過ぐれど、我をのまんとさらにせず。ただ谷より上さまへ登らんとする気色なれば、「いかげせん、ただこれに取り付きたらば、登りなんかし」と思ふ心つきて、腰の刀をやはら抜きて、この蛇の背中に突き立てて、^④それにすがりて、蛇の行くまに引かれて行けば、谷より岸の上さまにこそこそと登りぬ。その折、この男離れて退くに、^⑤刀を取らんとす

問一 傍線部①の口語訳として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア なすすべもなく イ やるべきことが多く ウ やりたいことも見つからず
エ することを見失って

問二 傍線部②の口語訳として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 何とか努力すれば谷底から脱出できそうだ。
イ 何かと心配なので谷底に降りていつてみよう。
ウ わずかでも働けば谷底に降りることができらるだろう。
エ 少しでも身動きしたら谷底に落ちてしまいそうだ。

問三 傍線部③、⑧の語句の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ③ ア 心配 イ 気持ち ウ 気配 エ 話し声
⑧ ア 落ち着いて イ 自宅で ウ 次の日に エ 翌朝

問四 傍線部④がさすものは何か、文中から漢字一文字で抜き出しなさい。

問五 傍線部⑤の主語は誰か、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 従者たち イ 蛇 ウ 男 エ 観音

問六 傍線部⑥で男が語ったことについて生徒同士が話し合っていますが、一人だけ間違っています。間違った

生徒は誰ですか、記号で答えなさい。

生徒A 鷹を商っている男にとつて見つけた鷹を命の危険を冒してまで手に入れたかったということはよくわかります。でも助かったからよかったけれどこのまま死んでしまうこともあったのだから、本当に観音様を信仰していたよかったです。

生徒B 良い鷹というのはなかなか手に入るものではありませんが、この男は苦勞して手に入れたことでのちのち安定した生活をしたと書かれています。信心深い男だからこそ観音様が認めてくださったのでしょうか。なんとありがたいことです。

生徒C 大きな蛇が出てきたときには食べられてしまうのではないかと心配しましたし、この蛇が一体何なのだろうと不思議にも思いましたが、最後まで読んでみると観音様がこの蛇を遣わしてくださったのだということがよくわかりました。

生徒D 大きな蛇が出てきてとても怖い思いをした男でしたが、とっさの判断で蛇の背中に刀を突きさしたことが彼の命を救った大きな理由となったと思いました。この判断ができたのもきっと観音様が支えてくださったからなのではないでしょうか。

問七 傍線部⑦とあるが、文章全体を読んで「観音の御助け」と男がわかった部分を文中から三十五字で抜き出

し、その最初と最後の三字ずつを書きなさい。

問八 傍線部⑨の解釈として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ただ驚いたどころではないぐらいにびっくりした。
- イ なんともあさましいと感じるぐらいに感動した。
- ウ 愚かなことにこのありがたさが理解できなかった。
- エ こんな素晴らしいことはないはずなのにと残念があった。

問九 『宇治拾遺物語』と同時代の作品でないものは次のどれか、最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 古今和歌集
- イ 新古今和歌集
- ウ 平家物語
- エ 方丈記

三 次の問いに答えなさい。

問一 次の空欄には同じ読み方の漢字が入ります。ウにはどの漢字が入るか、書きなさい。

ア 法律が される。 イ 上昇 ウ を深める エ 期間を定める

問二 慣用句「寝耳に水」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 寝ている間にすべてのことが終わっていること。

イ 思いがけないことが突然起こってびっくりすること。

ウ 急に大きな音が鳴ったので慌てて起き出すこと。

エ 嫌なことは水に流した方が安定して落ち着くこと。

問三 物事の説明や描写をする際に別の物事に置き換えて表現する方法を比喻表現といいますが、いくつかの種類があります。次の比喻表現の種類として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

① 「りんごのほっぺ」や「僕は傷ついた獅子だ」

② 「月がほほえむ」や「木が両手を広げる」

ア 直喩法 イ 擬人法 ウ 擬態法 エ 隠喩法

問四 次の空欄に入れる言葉としてふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

回送電車がまいります。

ので、次の電車をお待ちください。

ア ご乗車できません イ ご乗車になれません

ウ ご乗車いただけません

エ ご乗車はできません

四 次の漢字の読み仮名を書きなさい。

- ① 理に適ったやり方を見つける必要があります。
- ② 皆既日食を見るために島に行きました。
- ③ これは時宜をえた企画です。
- ④ 彼はつらい様子を微塵も見せなかった。
- ⑤ 間違いは潔く認めるべきでしょう。

五 次のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

- ① マンゼンと毎日を過ごしてはいけません。
- ② どんな批判でもカンジュするつもりでいます。
- ③ 将来は世界の平和にキヨできるようになりたいと思います。
- ④ 先日の大会で本校のチームはセキハイしてしまいました。
- ⑤ 美術館はカンセイな住宅街に建てられています。

